

畑作・野菜・花き生産情報 第7号（要約版）

令和4年10月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ 大豆は、ほ場ごとの適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎ 小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しよう！
- ◎ ながいもは、適期収穫で良品生産に努めよう！
- ◎ 秋ギクは、適正な温度管理と病害虫の早期発見・早期防除に努めよう！

○大豆

- (1) 地域やほ場で成熟期のばらつきが大きい。
- (2) コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下、子実水分20%以下となった時期である。収穫が遅れると紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に刈取りを行う。
- (3) 浸水や冠水被害にあったほ場については別刈りを行い、品質向上に努める。

○小麦

- (1) は種後の生育は、おおむね良好である。
- (2) 湿害や雪腐病を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。
- (3) 雪腐病の防除のため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

○ながいも

- (1) いもの肥大は、おおむね平年並からやや下回っている。
- (2) 収穫は、11月上旬以降、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。
- (3) 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- (4) 茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

○秋冬だいこん

- (1) は種後に大雨や日照不足の影響を受けたものの、9月以降は温暖で日照時間が多かったことから、生育が促進され、収穫期が早まっている。
- (2) 収穫は、ほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

○冬期間のハウス栽培

- (1) 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- (2) ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど省エネ対策に努める。

○ 秋ギク

- (1) 生育は順調で、病害虫は、アザミウマ類やアブラムシ類が散見される。
- (2) 白さび病や灰色かび病の予防を定期的に行うほか、アザミウマ類等の害虫の防除を徹底する。
- (3) 収穫は、2～3分咲きを目安に採花する。

○ キクの親株育成

- (1) 親株には病害虫の被害の無い健全なものを用いる。
- (2) 10月下旬までに伏せ込みを行う。

※アップルネット (<https://www.applenet.jp/>) に本文を掲載しています。

本年度の畑作・野菜・花き生産情報は今回で終了します。来年度は4月から発行する予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎農薬は適正に使用しましょう。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

◎地域ぐるみで農作業事故を防止しましょう！

◎秋の農作業安全運動実施中です！



| 報道機関用提供資料 | |
|------------|--|
| 担当課 担当者 | (畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 成田真樹 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木下均 |
| 電話番号 | (畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9485、内線 5076 |
| 報道監 | 農林水産部 次長(農商工連携推進監) 成田澄人 内線 4967 |

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>